

施政方針



久保田章市市長は、令和4年3月浜田市議会定例会議の開会にあたり、所信の一端を述べ、市民の皆さんの理解と協力を呼び掛けました。その内容を抜粋してお知らせします。



4月オープンの子育て世代包括支援センター「すくすく」

特に力を入れる政策

1 若者対策

少子化の大きな要因として、若者の減少が挙げられます。その対策として、令和3年度から、若者の「出会い・結婚・出産・子育て」をトータルで応援する事業に取り組んでいます。また、新たに、結婚したカップルや赤ちゃん誕生世帯への応援金、第3子以降の保育料及び保育所などの給食費の無償化を始め、令和4年度からは、子ども医療費の助成を、これまでの中学生から18歳までに拡充します。

さらに、若者を支援する事業の創出、拡充に取り組みます。具体的には、Uターン者向けに、空き家バンク物件の改修費助成の上乗せや、農業や漁業研修終了後の定着を促す制度の創設などを行います。また、地



「すくすく」の活動に参加する親子

域で活躍する若者を応援するため、若者が起業した場合の起業時補助金の上乗せや、昨年設立された「若者会議」への活動支援を行います。浜田市で生活する若者の暮らしを支えるためには、雇用の場の確保も重要です。ウェブサイト「働こう@浜田」を活用し、地元企業の魅力アピールするなど、若者の雇用確保や定住促進に努めます。また、本年2月にリニューア

2 協働のまちづくりの推進

「浜田市協働のまちづくり推進条例」の基本理念の実現を目指し、令和3年度に、「浜田市協働のまちづくり推進計画」を策定します。計画に掲げる具体的な施策を展開し、市民の皆さん、地域で活動する様々な団体や事業者の皆さんと力を合わせながら、協働による持続可能で元気なまちづくりを進めます。

また、まちづくりセンターやまちづくりコーディネーターと連携し、引き続き、地区まちづくり推進委員会の設立や活動に対する支援を行います。

きました。国は、有機農業を推進しており、本市でも、今後、有機農業の取組面積の拡大を図ります。

また、新たに実施する「担い手等育成支援事業」により、地域農業の担い手を育成します。

②有害鳥獣対策

集落ぐるみで鳥獣被害対策を行うモデル集落を育成し、地域全体での対策に取り組みます。

③林業振興

森林環境譲与税を有効活用し、森林環境の整備や地域林業の活性化を推進します。

商工業の振興

①事業者支援 長期化するコロナ禍において、引き続き、国や県の支援策を補完しながら、地域特性も考慮し、事業者に寄り添った支援を行います。事業承継では、地域おこし協力隊員が任期終了後に本市に定着できるよう、関係機関とサポートします。また、新たに募集する協力隊員と後継者不在事業所などのマッチングを支援します。

起業・創業では、引き続き、セミナー開催などの支援を行うとともに、起業間もない人へのフォローアップを充実します。

浜田港を活かした産業振興

①港のにぎわい創出と地域経済の活性化

令和4年度は、浜田港福井第2上屋が竣工予定です。今後、大型船舶に対応した港湾整備に向け、国や県に働きかけます。また、海上運賃の高騰が続いています。島根県及び浜田港振興会と連携し、荷主企業を支援します。

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、クルーズ客船の誘致活動に取り組みます。

観光・交流の推進

①観光振興 新型コロナウイルスの影響により、観光連事業者や飲食店は大きな影響を受けています。これまで、観光関連事業者への応援給付金や飲食店への支援、プレミアム付「はまだ飲食・宿泊応援チケット」による、消費喚起に努めてきました。

感染状況を注視しつつ、今後も観光・交流に力を入れます。令和4年度は、新たに「美肌観光推進事業」に取り組みます。島根県とも連携し、温泉を活用した交流人口拡大を目指します。



美又温泉 露天風呂

②浜田の魅力発信

昨年11月、「第3回全国未成線サミットin浜田」を開催しました。今後、広浜鉄道今福線を活用した観光誘客に取り組みます。石見神楽については、本年7

7月の「まちづくりの大綱」

1 活力のある産業を育て雇用をつくるまち

水産業の振興

①新船建造 令和3年の水揚げは、漁業資源の減少や、昨年3月の地元まき網漁船の事故などにより厳しい状況でしたが、地元漁業者の努力に加え、外来船への入港奨励支援を行ったこともあり、水揚金額は37億3800万円と、前年を上回りました。

将来にわたり水産浜田として生き残るためには、地元漁船の存続が重要です。特に、老朽化が進む沖合底びき網漁船団には、令和4年度、島根県と連携して新船建造を支援し、事業継続を

特に、人口が多い地区のまちづくりセンターにおいては、拠点整備の要望もいただいています。まずは、石見まちづくりセンターを補完する「(仮称)長沢サブセンター」の整備を進めます。

②高度衛生管理型荷さばき所の整備

令和4年度には、沖合底びき網漁業用の4号荷さばき所の完成を目指します。

③はまだお魚市場

令和3年7月のブランドオープン以降、県内外からの来場者にぎわっています。指定管理者や水産関係者と連携し、更なるにぎわい創出に努めます。



はまだお魚市場 ブランドオープン

④瀬戸ケ島埋立地での陸上養殖

新型コロナウイルスの影響で共同研究が中断していますが、できるだけ早い研究再開に向け、水産関連企業に働きかけを行います。

農林業の振興

①農業振興

有機野菜を加えた4つの振興作物に対する支援などを行って

月に、東京で石見神楽国立劇場公演を開催します。首都圏での認知度向上に努め、本場・浜田市への誘客につなげます。また、2025年開催の大阪・関西万博での公演を視野に、PR活動に取り組みます。



日本遺産の石見神楽

対応で、Uターン者の定住につなげます。

③浜田沖天然ガス試掘調査

本年3月から、浜田沖天然ガスなどの試掘調査が行われるとの発表がありました。商業化が実現すれば、天然ガスの国内自給率向上だけでなく、地元経済の発展につながるため、島根県と連携し支援してまいります。

2 健康でいきいきと暮らせるまち

子どもを安心して産み育てる環境づくり

①子育て環境の整備

子育て世代包括支援センターは、本年4月に開所します。子育て支援の新たな拠点施設として、事業内容の充実に努めます。本年1月、病後児保育室の浜田駅北側移転に合わせ、休止していた病児保育事業を再開しました。

従業員の「出会い・結婚・出産・子育て」を企業にも支援してもらうため「応援企業認定制度」を設けます。

②不妊治療支援

不妊治療支援は、出生数の増加に直接つながる施策として、少子化対策の効果も大きいことから、今後も国の動向も見ながら、より一層の充実を図ります。

③子ども虐待発生防止対策

本年4月、子育て支援課内に

子ども家庭総合支援拠点を設置し、要支援児童やその家庭などへの支援を行い、ヤングケアラー対策にも取り組みます。

高齢者福祉の充実

①高齢者の元気づくりの推進

浜田市地域包括支援センターは、令和4年度から浜田市社会福祉協議会に運営業務を委託します。スムーズに移行できるよう、委託先と連携を図ります。また、認知症高齢者などの安全確保のための「浜田市どんちっちSOS見守りシール」の交付や、認知症の人の支援を行う「チームオレンジ」の拡充など、認知症の人とその家族を支える地域づくりを進めます。

障がい者福祉と地域福祉の充実

①障がい者福祉の充実

浜田市基幹相談支援センターを中心に、障がいのある人もない人も、共に安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

②地域福祉の充実

令和4年度、市の各福祉分野の上位計画となる「地域福祉計画」を改定します。また、「浜田市再犯防止推進計画」に基づき、犯罪をした者などの円滑な社会復帰を支援します。

医療体制の充実と健康づくり・介護予防の推進

①医療体制の充実

浜田医療センターの機能充実のため、関係機関と連携して医師確保に取り組みます。本年3月末には国保診療所の医師1人が退職されますので、新たな医師の招聘に努めます。また、看護師確保のため、浜田医療センター附属看護学校への支援を行います。

②健康づくりの推進

「第4次浜田市健康増進計画」及び「第4次浜田市食育推進計画」を策定し、はまだ健康チャレンジ事業や、いきいき百歳体操の普及に取り組みます。



いきいき百歳体操

続き、希望される方が円滑に接種できるよう、取り組みます。

3 夢を持ち郷土を愛する人を育むまち

学校教育の充実

子どもが主体的に学び、自ら課題を解決していくこととする力を育む取組を進めます。併せて、ふるさとへの愛着を育む「ふるさと郷育」を、引き続き推進します。

小中学校のトイレの洋式化に順次取り組み、校舎は2年間、体育館は4年間で改修します。公立幼稚園では、令和5年度の長浜幼稚園の園舎を活用した統合に向け、準備を進めます。統合幼稚園内に、浜田市幼児教育センターと、特別な配慮を必要とする子どもの支援の充実のための幼児通級教室を設置予定で、その準備にも取り組みます。

社会教育の推進

今年度、公民館から移行したまちづくりセンターを拠点に、協働のまちづくりなどに取り組みます。地域で活躍する人づくりのため、センター職員の社会教育士取得を進めます。

また、HAMADA教育魅力化コンソーシアムの取組として、市内高校との協働を通じて、高

校生の探究的な学習や主体的な地域活動への参画を支援します。



まちづくりセンターの活動「しめ縄づくり」

歴史・文化の伝承と創造

歴史文化保存展示施設については、浜田郷土資料館が建築後60年以上を経過し、老朽化が著しく、展示スペースも狭いという問題を抱えています。

令和3年12月市議会定例会議の所信表明で申し上げました市民の皆さんとの意見交換は、来年度早々に、まずは、浜田市郷土資料館の現状や建替え整備に至った経緯などを丁寧に説明し、意見をお聞きした上で、今後の進め方を考えます。

12月定例会議において、事業名を「浜田郷土資料館建替え整備事業」としてはどうかとの提案をいただきました。確かに現在の事業名では、「建替え整備」という趣旨が伝わりにくいと、う気もします。そこで、今後、事業名を「浜田郷土資料館建替

え整備事業」に変更します。

また、未指定文化財も含めた地域における文化財の保存活用を促進する計画作成に着手し、まずは、各地域の文化財を把握します。また、日本遺産に認定された各文化財の保存活用、石見神楽関係などの文化財指定に向けた調査にも取り組みます。

4 自然環境を守り活かすまち

カーボンニュートラル 脱炭素社会の推進

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出を削減し、植林や森林管理などで温室効果ガスを吸収することで、実質的に排出をゼロにすることです。国の「2050年カーボン

ニュートラル宣言」を踏まえ、脱炭素社会の実現に向け、本年4月にカーボンニュートラル推進室を設け、「脱炭素を市民と共に学ぶ環境づくりの推進」、「地域の再生可能エネルギー導入の支援」などに取り組みます。

循環型社会の構築

循環型社会の構築に向け、ごみの減量化や資源化に関する意識啓発などに努めます。エコリーンセンターでは、「長寿命化総合計画」に基づき、

令和5年度から行う基幹的設備改良工事の準備を進めます。ごみカレンダーは、令和4年度分から文字を大きくするなど変更します。

環境保全と快適な住環境づくりの推進

「第3次浜田市環境基本計画」に基づき、市民と行政が一体となって、環境美化活動や住環境・自然環境の保全に取り組みます。

5 生活基盤が整った快適に暮らせるまち

道路網の整備

山陰道の三隅益田道路では、令和7年度中の開通に向けて工事が進められており、早期完成に向け、引き続き国に要望します。浜田道でも、4車線化の優先整備区間に位置づけられた穂・金城間の早期事業化を目指し、引き続き国に要望します。

令和3年度に創設した浜田市公共施設長寿命化等推進基金を財源に、市道などの道路修繕や橋梁改修などを計画的に実施します。

公共交通の充実

「浜田市公共交通再編計画」に基づき、令和3年度に導入し

た「あいのりタクシー」の支援に取り組みます。また、国や県に対しタクシー事業の継続に向けた支援制度の創設を要望するとともに、市独自の支援策を検討します。

好評の「敬老福祉乗車券交付事業」は、障がい者無料交付の対象者も購入できるよう制度を拡充し、引き続き実施します。

地域情報化の推進

高速情報通信基盤整備であるケーブルテレビ回線の光化工事は、令和3年度中に幹線工事が完了し、令和4年度は、三隅地域から宅内工事に取り組みます。「情報化推進計画」に基づき、ケーブルテレビを含む各種情報通信ネットワークの活用を進めます。

浜田駅周辺整備

君市踏切北側の道路工事は、ほぼ完了しています。君市踏切の移設工事は、JR西日本から提示された金額を精査した上で、改めて、議会に諮りたいと考えています。

生活基盤の整備

①上下水道の整備
水道事業では、令和4年度も

続き、希望される方が円滑に接種できるよう、取り組みます。

3 夢を持ち郷土を愛する人を育むまち

学校教育の充実

子どもが主体的に学び、自ら課題を解決していくこととする力を育む取組を進めます。併せて、ふるさとへの愛着を育む「ふるさと郷育」を、引き続き推進します。

小中学校のトイレの洋式化に順次取り組み、校舎は2年間、体育館は4年間で改修します。公立幼稚園では、令和5年度の長浜幼稚園の園舎を活用した統合に向け、準備を進めます。統合幼稚園内に、浜田市幼児教育センターと、特別な配慮を必要とする子どもの支援の充実のための幼児通級教室を設置予定で、その準備にも取り組みます。

社会教育の推進

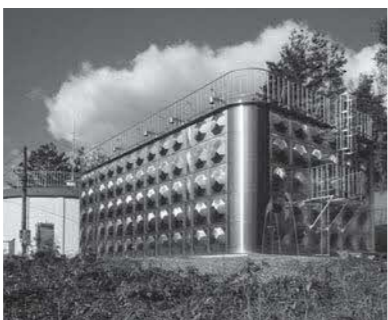
今年度、公民館から移行したまちづくりセンターを拠点に、協働のまちづくりなどに取り組みます。地域で活躍する人づくりのため、センター職員の社会教育士取得を進めます。

また、HAMADA教育魅力化コンソーシアムの取組として、市内高校との協働を通じて、高

基幹管路の耐震化を推進します。冬季の凍結・漏水による断水が生じないよう、対策を進めます。下水道事業では、令和8年度から浜田処理区の順次供用開始に向け、整備を進めます。

農業集落排水事業などでは、令和6年4月の公営企業会計移行に向け、準備を進めます。

②地籍調査
地籍調査をできるだけ早期に進めるため、業務の効率化と組織体制の充実を図ります。



断水防止対策（今福地区増設タンク）

6 安全で安心して暮らせるまち

災害に強いまちづくり

通行止めとなっている周布橋は、現在、仮橋の工事中で、本年3月末までに完成予定です。歩道を確保した新たな周布橋は、令和4年度に詳細設計を行い、令和6年度末の完成を目指します。

新しい防災ハザードマップは、昨年、全世帯に配布しました。市民の皆さんが災害時に適切な避難行動が取れるよう、防災出前講座などで周知・啓発します。市民の皆さんに、重要な情報を速やかに伝える次期防災情報システムの導入を検討します。引き続き、自主防災組織の設立や育成を支援します。

防犯・交通安全対策

①防犯対策
令和3年は、特に還付金詐欺などの特殊詐欺が増加傾向にあります。浜田警察署や関係団体と連携した防犯活動に取り組みます。

②交通安全対策
高齢者や子どももの交通安全対策に重点を置き、浜田警察署や関係団体と連携した交通安全対策に取り組みます。

小中学校の通学路などの安全対策では、ふるさと応援基金を活用し、引き続き、危険箇所の解消に努めます。

米軍機騒音問題

令和3年の県西部地域の騒音認知件数は、ピークの平成26年に匹敵しました。引き続き、島根県や関係市町と一緒に、外務省、防衛省に対して飛行訓練の

中止などの要望を行います。

消防・救急体制の充実

消防団は、消火作業だけでなく、行方不明者の捜索救助など多方面で活動しています。消防団員の確保にも資するよう、年報酬などの処遇改善予算を本定例会議に提案し、消防団の充実強化に努めます。

昨年コロナ禍で実施できなかった市民参加の消火訓練など積極的に実施し、火災に強いまちづくりを進めます。

AEDの使い方などの応急手当講習を実施し、「まちかど救急ステーション」認定事業所とも協力して、救急車が病院に到着するまでの救護体制の充実を図ります。

7 協働による持続可能なまち

定住環境づくりの推進

40歳未満のUターン者への空き家バンク物件の改修費助成を拡充し、若者の移住促進と空き家の有効活用に取り組みます。また、定住相談員による相談対応に努め、市内事業所への就職支援など、関係機関と連携した取組を推進します。

さらに、国の「特定地域づくり事業」を活用し、若手音楽家

の移住促進を進めます。

浜田応援団については、新型コロナウイルスの感染状況を見つつ、イベントのサポートや地域活動などに団員の知識や経験を活かしていただく取組を進めます。IT人材の誘致や育成を推進するとともに、地域の若者と交流する仕組みを検討します。

大学等高等教育機関との連携

島根県立大学では、昨年4月に国際関係学部及び地域政策学部が設置されました。これまでに上記に地域との連携・交流が深まるよう、研究奨励金等給付事業を活用した学生の研究支援を行います。

人権を尊重するまちづくりと男女共同参画社会の推進

①人権を尊重するまちづくり
「浜田市人権教育・啓発推進基本計画」に基づき、一人ひとりの個性や違いなど多様性を認め合い、人権が尊重される社会の実現を目指します。

同和問題をはじめ、様々な人権問題の解決に向け、地域や企業などにも積極的に研修の開催や参加を働きかけ、人権尊重を目指す条例の制定を検討します。

②男女共同参画社会の推進
「浜田市男女共同参画推進計画」に基づき、性別にとらわれ

各地域のまちづくり

ず、誰もが自分らしく生活できる社会の実現を目指します。

金城

①農業と観光の振興

農業振興では、新開団地と元谷団地を核として、大粒ぶどうや有機野菜などの産地化を目指します。



大粒ぶどう

旭

①農地保全と農業振興

農地保全では、広域集落組織の未設立地区において、立ち上げ支援を行います。

農業振興では、担い手となる農事組合法人などの体制整備、強化への支援を行います。

②交流人口の拡大

山陽方面からの玄関口となる旭温泉を拠点とした誘客促進が重要であり、良好なアクセスと気軽にくつろげる旭温泉の魅力をもPRします。

③住民主体のまちづくり活動

地域の課題解決に向け、住民と行政の協働による継続した活動につながるよう、支援します。



地域による農地有効活用(ひまわり栽培)

健全な市政運営に向けた取組

行財政改革

新たな行政需要に対応し、必要な事業を実施するため、「浜田市政改革大綱」に掲げる「スクラップ・フォー・ビルド」を基本理念に、既存事業を見直し、自主財源の確保に取り組みます。

自治体DXでは、本年4月に「(仮称)デジタル推進室」を設置し、令和4年度を「DX元年」と位置付け、行政手続のオンライン化に対応したシステム整備に着手します。行政情報化と地域情報化の整合性を図り、行政の効率化と市民福祉の向上につながるデジタル化を検討します。

令和4年度当初予算(案)

令和4年度予算の編成では、新たに策定した総合振興計画後期基本計画に沿って、主要事業の予算確保に努めています。

ハード事業では、高度衛生管理型荷さばき所の整備に取り組みほか、周布橋の架け替え工事に本格的に着手します。

ソフト事業では、カーボンニュートラルを目指した再生可

能エネルギーの導入支援に加え、消防団員の処遇改善、子ども医療費助成事業の対象年齢拡充などに取り組みます。

一般会計の予算規模は389億1千万円、令和3年度当初予算と比較し、金額で16億8千万円(4.5%)の増となりました。まだまだコロナ禍は続くと思われ、必要対策については臨機応変に対応します。

一方で、「中期財政計画及び見直し」でお示した、将来に責任のある持続可能な財政運営の実現に向け、行財政改革の取組も並行して行います。

終わりに

令和4年度は、私にとって市政運営3期目の本格稼働の年です。近年ますます多様化する行政課題に、国や県の支援も得ながら近隣市町と連携し、諸課題の解決に取り組めます。



仮設歩道橋建設中の周布橋

ほ場整備事業については、令和4年度に杵束地区の採択申請を行う予定です。

有機米の産地化では、令和4年度に実証ほ場を設置し、民間企業や島根県の協力も得て、安定生産と高付加価値化を図ります。

農産物の加工では、米を原料とした農産品の開発や販売促進のほか、イノシシ肉の販路拡大に取り組みます。

②新しい協働によるまちづくり
令和3年4月に2つのまちづくり推進委員会が1つになり、



農事組合法人による農作業

弥栄

①農業生産と加工

町内3つの農事組合法人の合併による担い手の新体制を構築するとともに、収益性の向上と農作業の効率化により、持続可能な農業を推進します。

「弥栄の未来創造会議」として始動しました。今後は、本委員会と一緒に、イベント開催や高齢者対策などに取り組みます。

ふるさと体験村は、令和5年4月の再開に向け、本定例会議に関連議案を提案します。

三隅

①石州和紙や西条柿などの地域資源を活かした産業振興

石州和紙については、技術継承、加工品の販売促進、原材料の「楮」の生産維持などに取り組みます。西条柿については、品質向上と、ポランテアを活用した取組を支援します。

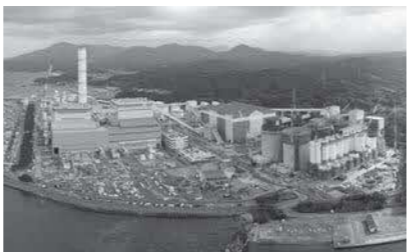
②住民主体の地域づくり

住民と行政が一体となった協働の関係を築き、地域の主体的な取組や課題解決を支援します。特に、住民自治組織や福祉施設などが参加する合同防災訓練による地域防災力の向上や、リハビリテーションカレッジ島根と連携した認知症予防運動などの介護予防に取り組みます。

③三隅発電所2号機

本年11月の営業開始を予定され、現在、施設がほぼ完成し、一部試運転を始めたと伺っています。引き続き地域住民や事業者と連携し、支援を行います。

中山間地域対策



建設中の三隅発電所2号機

中山間地域対策

中山間地域対策では、令和3年度から5年間で10億円の中山間地域振興枠を設け、農地保全や鳥獣対策、地域公共交通の環境整備など、中山間地域課題の解決に取り組んでいます。

特に、令和4年度は、①ケーブルテレビ統合や新たな防災情報システム導入の検討、②あいのりタクシーなどの運行支援、③地域農業の担い手育成支援や温泉を核とした活性化に取り組みます。